

令和5年度第1回阿南町総合教育会議議事録

日 時：令和5年9月28日（木） 午後1時10分から午後2時4分

場 所： 阿南町役場第一会議室

令和5年度第1回阿南町総合教育会議次第

- 1 開 会 総務課長
- 2 あいさつ
 - （1） 町長
 - （2） 教育長
- 3 意見交換
 - （1） 新野小中学校一貫校進捗状況について
 - （2） その他
- 4 閉 会 総務課長

《出席構成員》

町 長	勝 野 一 成
教育長	勝 又 司
教育長職務代理	林 一 仁
教育委員	田 嶋 修
教育委員	松 下 綾 美
教育委員	小 林 ちや子

《欠席構成員》

なし

《事務局》

総務課長	伊 藤 明
行政係長	南 島 剛 志

《出席職員》

教育委員会事務局長	熊 谷 寛
教育委員会子ども教育係長	渡 邊 美 樹
教育委員会社会教育係長	宮 下 善 太

1 開 会

○総務課長

皆さんこんにちは、定刻前ではございますけども、皆様お集まりですので、令和5年度第1回阿南町総合教育会議を始めさせていただきます。

2 あいさつ

○町長

改めましてこんにちは。残暑厳しいなか、皆様それぞれお忙しいなか、お集まりいただき誠にありがとうございます。

今朝も課長会議で話したのですが、飯田市も皆さんご承知のとおり10万人を切りました。また、いわゆる遠州、三河、南信州の三遠南信の圏域があって、そのなかでも南信州圏域のみ人口が減ってきており、そういうなかで飯田下伊那は労働人口が5万人不足しているというデータも出てまいりまして、各業種、いわゆる事業とも、いろいろな点で支障が出てまいっております。いわゆる人口減少が非常に大きな問題になってきた訳ですが、これを解決する方法がなかなか無い。今まで既にわかっていた話ですが、先般、新聞を読んでおりますと、『子育て支援ばかりしていても、子どもが生まれる支援をしなきゃ何もならない。今現在の子どもの支援ばかりをしていても、その子どももやがて一定の年齢になって去って行ってしまう。結婚支援をもっと国策としてやらなかったことが失敗だ。』と書いてありましたが、それは後の祭りでありまして、またこの現象は日本ばかりじゃなくて、周辺各国でも見て取れる訳ですが、そういうなかではいろんなものの問題に発展してきております。阿南町でも当然そうですが、買い物難民もそうですが、私が今一番心配しているのが、医療福祉の問題です。人材が賄えなくなってきております。医療福祉の維持が出来なくなる。そうなればここに住む人間がいなくなるということが現実でございます。

そういうなかで同じように学校も今小中一貫校に向けて色々ご検討頂いているところですが、結果的にはそれも一時的な話であって、それは見て取れますが、ここ数年で勝負をつけないといけないというのが現状だと思います。そういう意味で非常に厳しい時代を迎え、逆に言えば、日本の将来像の先取りをしているのが我々の町村ですが、しかしながらそこで知恵を出して、何かモデル的なものを創って少しでもそれに対処していけるような方策を考えなければならない。それがまた一つのモデルとなって先行き日本の大多数のところで発生する問題の一つの解決策になると思います。たぶん今後、数か所の大都市圏はいいでしょうが、ほとんどの地域はそういうことになると思います。そういうわけで、この教育環境の問題に関しても、一貫校の検討を皆様に取り組んでいただいておりますが、統合等の問題も取り組んでいただくこともあ

るかと思います。行政側としてもできることを一生懸命やっていきたいと思うので、その辺をお願いいたしまして、私からの挨拶いたします。

○教育長

どうもこんにちは。お世話になります。お忙しいなか、お集まりいただきまして、総合教育会議というのは年に2回しかないということですが、行政側との意見交換ができる機会であります。今、町長から話ありましたが、今日の主な話は新野小中学校一貫校に関する進捗状況を説明するなかで、一番は財政的な話がある訳でして、主に教員確保、町費で教員を確保しなければならないので、その点についてどうしてもお願いをしていかなければならないということでもあります。

中学が複式になることによって、教員の数が3名減り、尚且つ2学級になると、養護教諭も1減という状況であります。来年、令和6年度から一貫校になる訳ですが、教育委員会としましては現状を少なくとも今のような状態に持っていくなかで6年度を迎えたいということで考えていますので、養護の先生も当然用意させていただきたいと思いますので、そうした場合、どうしても町費で賄う先生が出てくるという状況であります。また、全国的に教員が少ないなかで長野県も当然少ない。そのなかでも南信地区、飯田下伊那、こういったところはどうしても教員が足りない。県費の先生、講師も足りないなかで、町費の先生が見つかるか、という状況のなかなんです、どうしても見つけて6年度を迎えなければならない。こういう状況であります。お金がかかるにしても、かからない方法ということで一貫校の選択で、小学校の先生に二中でも教鞭をとってもらう。また、二中の先生にも小学校に行って教鞭をとってもらう。協力をしあうなかで凌いでいくということで進めさせていただいております。意見交換もございしますが、今、一貫校でどういう状況であるか、そして6年度には財政的な援助もお願いしたいということで、有意義な会議にしたいと思いますのでよろしくお願いします。

3 意見交換

○総務課長

それでは、3の意見交換に移ります。

括弧1の小・中学校一貫校進捗状況について、教育委員会事務局より説明をお願いします。

○教育委員会事務局長

お世話になります。それでは新野小中学校の一貫校の進捗状況についてご説明申し上げますが、先立ちまして資料をお開きいただいて2ページになります。本日、名簿をつけてございますが、自然の家の所長の城田ですが、業務のために欠席させていただいております。あらかじめご了解願います。

それでは着座にて説明を続けさせていただきますが、まず新野学校の小中一貫校、隣接型の進捗状況でございますが、教育委員の皆様にはお手元の資料３ページにあると思いますけれども、教育理念部会ということで、既にご参加をいただいております、８月４日に第１回の部会の開催しまして、先日、９月２０日に第２回の部会がございました。今後、１０月１８日、中間報告の発表、同時に第３回の部会、１１月に第４回の部会の開催ということで、１２月２０日に第２回の全体会ということで、こちらの段階で、ほぼ最終の６年度からの一貫校の内容について決定をしていくというようなスケジュールでございます。それから同日、第５回目の部会を開いて、もう少し細かいところも練っていくということで、その他の項目もご覧いただきまして、グラウンドデザインは３学期に作成をしていくということでございます。このような形で現在一貫校の推進を進めておるところでございます。

続いて、４ページ、５ページをご覧ください。この一貫校を進めるに当たりまして新野の保護者の皆さんの方にアンケートをとりしました。これが第２回目にとったものでして、設問１は４ページにありますように６年度からの一貫校を進めていくことに対する賛否のご意見、それから設問２として早期に中学校統合を進めていくことについての賛否のご意見、それから設問３としまして、他の保護者の皆さんのご意見を反映して、今後の保護者全体として集約することの是非についての意見ということでお答えいただきました。その集計結果が５ページにございます。７月１８日現在、回収率９７．１％ということで、３５世帯のうち３４世帯の方からご回答いただいております。設問１の６年度からの一貫校化については、賛成が５９％、多い方に賛成するという方が１２％ということで、７割強の方が認めるというようなご回答いただいております。設問２の中学校を早期に統合を進めるということについては、賛成６２％、多い方という方が１２％ということで、こちらも７割を超える方が早期の統合について賛成というようなご回答をいただいております。それから設問３のＰＴＡ、保護者の総意ということでいいかということについては、賛成が８５％、反対が９％、判断できない未回答という、設問にはないですが、そういうご家庭が２件の６％ございました。こちらの方も教育委員の皆さんを含め、町長部局の皆様についても、新野地区の保護者の方の意見がこんな結果であるということをご承知おきいただければと思ひまして、本日資料として添付してございます。説明については以上でございます。

○教育長

よろしいですか。誤解されてはいけないので付け加えさせていただきますが、このアンケートについては、保護者会が実施したものでありますので、教育委員会はＰＴＡからの依頼により、配布と集計をしたということでありますので、あくまで教育委員会とすれば、一貫校を６年度に向かって進めていくという方向のなかで、保護者の方がこういったアンケートをとっていきたいということで協力したもので、結果とし

では、一貫校について7割強は認めてくれているのですが、その後はですね、どうも保護者の方々は、学校統合についての考え方、もしくは新野の学校を考えていくっていう保護者が大勢いると、いうように解釈していただければいいと思いますので、あくまで一貫校を進めて、同時に統合進めるような、そういうものではありませんので、これは保護者でやっているアンケートで、その集計を今回お見せしたということで、誤解のないようにお願いしたいと思います。

○総務課長

はい、今説明がありましたこの件につきまして、ご質問がございましたらお願いします。

○C委員

ちょっと、わからないところがあるんですが、アンケートなんですけど、初めてちょっと私も見たんですけど、初めに必ず読んでくださいと書いてあるところの5番のところ、教育委員会として保護者全体としての意見として判断することはありませんという文言がありますが、設問3のところに保護者が主体となって保護者全体としての意見を取りまとめていくことについてどう考えるかという質問があるんですけど、説明文と設問の記載内容にちょっと矛盾を感じるんですけども。

○総務課長

事務局、説明を。

○事務局長

はい。矛盾がありますかね。

○C委員

矛盾というか、上の表現だと、教育委員会として、保護者全体の意見と判断することはないって言いながら、下では保護者全体としての意見を取りまとめていくことについていうふうに書いてあるので。

○事務局長

はい。これはアンケートのこの部分だけ添付してしまったので誤解を与えてしまったと思うんですが、先ほど教育長から説明がありましたように、こちらはPTAと保育園の保護者会長さん名で保護者の方にアンケートをお願いした形でございます、今後、保護者の皆さんが新野地区の学校問題を考えるにあたって、考え方をまとめるということの是非を知りたいということで、これを教育委員会の方で皆さんの意見として捉えて進めていくことはありませんというような意味合いの表現になっているんですが、わかりにくかったですでしょうか。

○教育長

これは元々保護者会がアンケートを出していいですかっていう内容ですので、教育委員会がどうのこうののではないので文章がおかしかりょうがなんだろうがそれは保護者の方々が教育委員会はこの件については一貫校の方針で進める方針なので、それについての是非を設問1で確認し、設問2、3については、保護者として今後どうするかというような意味合いでまとめているものです。ただ、ここでたまたま保護者の方々がこういうアンケートを実施したということで、実は今度また新たに保護者の方々が町長、教育委員会並びに議会の方へ何か要望書が出るんじゃないかというような情報を得ましたので、いきなりではなんなので、教育委員さんや町長部局にも情報提供と思いましたので、教育委員会はあくまでこの配布について協力させていただいたということで、中身については、あくまで保護者の皆様独自の資料ということになります。

○総務課長

C委員さんよろしいでしょうか。

○C委員

わかりました。

○総務課長

他にご質問ございますか。

○A委員

こちらの集計結果は公表されますか。

○教育長

それは保護者会の判断に委ねることになります。教育委員会では外部には出さないけれど、保護者会の方で出すと言えればそれはお任せする。

○A委員

現状では、保護者会が保護者の皆さんに集計結果をお知らせしたというところですね。

○教育長

B委員さんいかがですか。

○B委員

保護者には情報提示がありました。

○A委員

一般の方から言われた場合は。

○教育長

教育委員会としては情報提供できません。保護者会の承諾がなければ出せません。

○A委員

教育委員会の管轄ではないので判断できないということですね。

○教育長

そうです。

○総務課長

よろしいですかね。あと３ページのスケジュールについてはご質問ありませんか。

○A委員

グランドデザインをまとめることが結構大変だと思います。前回の部会でも話があったのですが、そのなかでも二つに分かれていて、小学校１年から中学３年までを一つのグランドデザインのなかで考えていいのかなど議論になりまして、どういう結果になるかちょっとまだわからないですが、校長先生が今度は教師の皆さんとの協議を今行ってくれていますので、次の部会、全体会あたりで校長先生を含めた先生方の現場からのご意見が改めてでてくるのかなあとということに期待をしております。今までやったことない流れなものですから、苦労しそうな気がします。

○教育長

それと教育委員会のなかでは、出生率から保育園児の数からいえば、近い将来、このままでいけるのかという心配が先生方にもあるんじゃないかと思っています。ただ町教育委員会とすれば、６年度はこういう形で行くをお願いしています。ただある意味当初計画したとおりに６年度にできない部分もあります。動き出してから修正していこうというところもあります。これからとにかく６年度を迎えるにあたって、とにかく一貫校ですすめるという流れのなかですすめていくということです。

○総務課長

グランドデザインについては、３ページの下段に２校別々か共通かという記載もあります。そうすればご質問他にありますでしょうか。なければ、あったらまた後でお願いしますが、次になりますけど、ご意見等ということをお願いしたいと思います。

○教育長

冒頭私の挨拶のなかで、一貫校を進めるにあたって、保護者には今言うように１０月頃には現状を説明させていただきますが、議会にも１２月には状況説明をさせていただきたいと思っております。が、人事に関わる問題があって、なかなか公表できない部分がある。１２月になればある程度の構想ができるのですが、既に阿南二中に関しては、９人いる先生が来年複式になることで６人になって３人減ってしまう。異動しなければならない。これはわかってるんですが、その３人が私なのかどうかというのは正直なところ薄々は感じている先生もいらっしゃるでしょうが、そういったことで先生のモチベーションが下がってしまってもいけないので、なかなか細かいところまで喋れないところもあるんですけど、学校は今の状態を維持するという形でお

ます。当然新野小学校、二中はそのまま校舎を活かす。そういうことは当然事務の先生も残るし、養護の先生は確かに2学級になるので1名減になることは間違いないですが、先ほど言いましたが、町でどうしても事故があったときにいくら診療所が近くでも、小学校が近くにあっても6年度については用意させていただくということで用意をさせていただいております。そういった財政的なことで3人の先生が減ることから、当初、校長先生、教頭先生を1人に減らせば教員が2人確保できるという構想でいたんですが、どうも県は教頭先生の枠しかあてがうことしかできないという話です。結局校長分はみてくれないということで、本当は教頭先生を2人残したかったのですが、今の状態では残すことができないので、校長1人教頭1人を残して、隣接型の小中一貫校ということで、名前がですね今二中を消すわけにはいかないので、小中一貫校第2中学校、小中一貫校新野小学校というようなことで、全部を変えるんじゃないくて、一貫教育校という形でそれぞれの学校を運営します。そうすることによってそのまま条例を変えることなくいけると考えています。この辺のところまた議会に示して了解を得なければならない。ただ今、二中の先生の誰を3人削るかで動いてるもんですから、来たばかりの先生を異動させるわけにもいかないし、二中がですね、産休の先生やら、海外に行っている教員がいるので、その代替で入ってくれている先生は動かさないで、本当に限られた制約のなかでの動かしをせざるを得ない状況であります。ですから、場合によると町費の先生を確保せざる負えない可能性がある。今必死で先生を探しております。ただ、今度の新野小学校がですね今度、保育園から上がる児童数により学級数が増えることにより先生が1人増えるんですけど、小学校の担任の先生になるので、どうしても応援に行けるような体制じゃないので、何とか兼務が可能な先生をとということで、小学校にくる先生は、中学の免許を同時に持った先生をお願いをしております。これがなかなか校長会とか色々な絡みがありまして、本人の希望もありまして、すんなり来てくれるかわからない。いずれにしても一貫校にすることで生徒に不利益を与えないようにということで頑張ってるので、どんな先生を確保しなきゃいけないかについてはこれからのところもあるのですが、小学校でどんな先生を確保できるかによって、ちょっとまたいろんな関係の先生を町費で準備しなければならない状況でありますので、ちょっとまだ具体的に数字とか色々出せないなかですが、12月までには概ねの数字などご報告できる形になればと考えているところ です。

○総務課長

教員確保について説明がありましたが、ご質問ありますか。

○町長

今の状況は分かりましたが、確保は大丈夫なのか。

○教育長

確保します。

○町長

確保できなければ成り立たない。

○教育長

何とかしなければならない、協力し合って。実はさっき愛知東邦大学のお話しをしたんですが、先生になりたくても先生になれない生徒を紹介して欲しいという話もさせていただいております。愛知東邦には阿南高校から送り込めていないのですが、子どもの教育学科があるので小学校の第1種の免許が取れますので、そちらの生徒で教員になれない生徒で教員を目指している方がいれば紹介して欲しいという依頼はしております。昨日、飯伊の会議でもそういった方がいれば飯伊で紹介して欲しいという話も出たのですが、他の町村に取られてもいけませんし、また町長にもお願いに一緒に行ってもらいたいというような話も内々に進めております。いたるところで教員確保に向けて動いております。

○町長

大学にしても高校にしても人数が減っているなかで、飯田下伊那の阿南高校以外の高校でも生徒数が減っている。それは理由の一つに、飯田長姫O I D E高校の通信制が関係している。そちらに流れる生徒が増えている。通信制の詳細な内容は私もよくわかっている訳ではありませんが、自由度が増した生活ができるようですね。登校時間も制約が緩い。そういったことから今様の皆さんは楽で自由な選択しを選ぶ傾向にある。従ってそちらへの流れができていますので、郡内の全日制の高校の生徒が減少している傾向がある。そういったなかで修文大学や愛知東邦大学の学長などは地元で生まれた子どもは地元というお考えもあって、高校の校長先生からだけではなく、首長が責任を持ってくればお預かりしますよと、生徒の受入れの契約をさせていただいて、今私立大学では愛知県の修文大学と愛知東邦大学に今現在3人お願いしている。修文大の看護学科と臨床検査技師の勉強をしていますが、その目的は医療従事者の確保ができなくなっているためで、医療系に進学していただいて必ず阿南病院へ就職をしてもらう約束事であります。下伊那でも南部地域は色々と北部地域とは差があって、首長として取り組まなければならない問題が多くあります。そのなかで医療、福祉も同じ問題で、結局、医療従事者の確保もそこまで考えてやらないと県立阿南病院の維持が危ぶまれる状況です。その前段では診療所の維持が出来なくなる問題もある。つまり、旧村単位にある診療所がその前に無くなるんだと思う。そういう問題もありますし、医療の無いところは人もいなくなる。今まで住み続けた高齢者は残

るかもしれませんが、若者は残らない。そうならないように今から手を打たないと大変なことになるなあと思っております。現実はそのまで厳しい状況に至っております。従って医療に関しても今まで考えなかった仕組みを考えないと医師や医療従事者の確保ができない。これは南部の首長にとっては非常に頭の痛い問題。そればかり考えている訳にはいかないのですが、医療福祉がここで賄えなければ、人は住まない状況になる。生身の問題ですから、直接影響する話。教育の問題も同じ話。この話も今の考え方で進めてもいつまで行けるのかという問題もでてくるかと思います。それは教員にしても子どもにしても人がいなくなる話。当然福祉の方もヘルパーの確保が非常に難しくなって介護サービスが提供できなくなる施設も出てくると私は考えてそういった問題ばかりが南の方に増えておりまして、この先、私自身もどうなるかわかりませんが、何とか知恵を絞って置かれている状況のなかで、無いものねだりばかりではなくて、どうやって維持していくかをかんがえなければならないという状況に今現在あるということです。

○総務課長

それでは次にご意見ということで、町長の話も含めまして、小中一貫校の進捗状況についてでございますが、お1人ずつご意見をいただいてということで、お願いしたいと思います。

○A委員

先ほども申し上げましたが、関わっている人間が皆始めてのことですから、先ほど教育長の言われたように、実際に動き出してみないと何が問題で何に手をつけていいのか正直見当がつかないものが集まって協議をしております。こういうなかです。ね、一番先に考えなくてはいけないのが、町長がおっしゃられましたように、この1、2年を見るのではなくて、先々、やっぱり5年とかそういう先を見た上です。ね、どういうあり方がいいか、これはもうその時に、そういうその時代になれば、阿南町全体の教育、或いはもう南信州全体の教育をどうするかっていうような、おそらく時期に来るんじゃないかと思っております。ここで売木ももう一貫校ですし、天龍村ももうそうですし、阿南町も半分がそういうことになったっていうことになると、南部の方はどうやってこれからやってくるんだっていうあり方をですね真剣に考えていかざるを得ない。かなり問題としては大きなテーマにおそらくなっていくんだろうなと、これからの試金石、阿南町にとっての第1回目なのかなと思います。おそらく、中学の統合あるいは小学校の統合というような話がそう遠くないうちに避けて通れないところまで来ているんだろうなということは確かなんで、そういったことを念頭に置いてこれを進めていきたいというふうに考えています。以上です。

○総務課長

ありがとうございます。B委員さんお願いします。

○B委員

特別な意見も無いんですが、一貫校として踏み出したことは間違いなくていいことだと思います。やっぱり人口減に対する対策の一つとして、いろんなやり方があるなかで、中途半端に見えるかもしれませんが、一貫校ということで一步前進できたかなと思います。これを維持する進めていくのがまず大切だと思います。それから町長の話にもありましたように人口が減っていくことは皆わかっていて、保護者の方の焦りも本当に心のなかから出てくることだと思います。確かに福祉も大事な問題なんですけど、若い人も生まれ育つというのもないと、結局何年、何十年先には地域がなくなってしまうということで、本当に全てのことを維持するために、全てのことを改革しながらやっていかなくてはいけないなあ実感しております。

○総務課長

ありがとうございました。それではC委員さんお願いします。

○C委員

同じようなことになるかもしれませんが、今年成人式の式典に出席させていただいたんですが、43名の成人者がいらっしまったと思います。去年阿南町で生まれた子どもさんが赤ちゃんが5人とか6人とかいう話も聞いてます。そうすると、20年後の成人式って、5人か6人になっちゃうんだなと思って。そんなことを考えながら今年成人式を見てたんですけれども、なんかすごく急速に人口減がここへ来て進んでいるのかなっていうようなことを感じております。最近テレビなんかでも盛んにこの長野県とか飯田下伊那ばかりのことじゃないんですけど、全国的な問題でもあるんですが、とにかくタクシーの運転手さんがいないので、タクシーはいっぱい並んでるのに運転する人がいない、ていうような番組もありましたし、それからトラックの運転手さんがもうなくて、若い世代が全然トラックの運転手さんになり手が無い。それから、それで60歳前後の方たちが今担っていて、定年退職した人ももう一度再雇用してやってもらってる現実があると。それからもう一つは、教員の問題。ずっと問題になってるんですけど、教員のなり手が少ないということでは、都会、東京都、和歌山、広島は結構多かったりするんですが、新学期に担任がいない学級が、結構数が多い。多くて新学期が始まっちゃったっていう記事が盛んに出ていましたが、そういうことでとにかく働き手っていうか働く世代が少ないのか、職種がそういうわけで、トラックの運転手が大変だから避けるからいなくなるのかは、そこはちょっとわからないんですけれども、何か本当に切実な問題として今あるなという感じがします。阿南町で言うと一番はやっぱり教員確保、さっきから話題に出っていますが、この小中一貫校を進めるにあたって一番進めたいっていう理由のなかに、教員確保の問題があるという

気がするんですよね。だけど実際教員確保は難しいっていうようなことで、でも、教育長さんはやりますって先ほどおっしゃったんですけど、やっていかざるを得ないと思うんですけども、本当に大変だと思います。40年前も言われたことなんですけど、飯田下伊那の教育は本当に人数少ないんですよ、飯田下伊那出身の教員が。だから新卒をみんな中信、北信の方から呼んできて、よく言われたのは、下伊那で新卒を育てて、育て上げると地元に取りられちゃうっていうことをよく言ったんですけども、本当に当時よりさ更に教員の確保って難しいんですけど、とにかくやっていかざるを得ないのかなって思いますけれども。さっき林委員さんも言われたんですけど、本当に10年先20年先って学校はどうなるんだろうかっていうところも頭に置いて考えていかないと、本当に1年先、2年先もちろん大事だと思うんですけども、10年先、20年先も見据えて考えていかなきゃいけないと思います。以上です。

○総務課長

ありがとうございました。D委員お願いします。

○D委員

私も本当に不勉強だったと思いますが、阿南一中に勤めさせていただいた間に先生方や子どもたちがいつ統合するんだろうと思っていたのが。まだその気配がないなあというところからだんだんに諦めムードになって、子どもたちのなかに少し暗い影を落としていたのが事実です。新野地区が小中一貫になったということを住民の皆さんに説明する時に大下条や富草地区の皆さんはどう思うのかなあって考えた時に、統合の話はいったいどうなったのかなあという話と、この先、この話はどうなるのかなあ、新野が小中一貫になったら、富草、大下条、和合も一貫校になるのかなあというようにそういう色々な考えが出てくると思うんです。新野地区は小中一貫についての話が進んでいるんですが、先生方にアンケートを取ったところ不安で仕方がないという話が出ていたので、計画を立てるにあたって、これが来年1年の話になるのか、またその次はどうなるんだとか、働いている私たちはどうなるのかというそういう不安がありながら一生懸命考えてくださっているのが、本当に気の毒だというか、大変だなあと思います。進めるにあたって、現実には子どもたちの数が少ないので、町のリーダーシップ、財政はどこまで出せるのかもありますが、ある程度目に見えてきた方が町の皆さんは協力的に色々考えてくれるのではないかと今思っています。もう一つは今の阿南町の教育大綱が学力向上を目指す町なんなんですが、ちょっと今の時代に合わなくなっているかなあということも私も少し思っていて、令和の日本型学校教育の姿が令和3年に答申が出ていて、それを盛り込んだものがちょうどこの新野学校の一貫校の学校目標に明るいものを感じますので、国の方針を踏まえたものに変えて、子どもたちの目線でワクワクするようなもの、県も探求県長野といっているのです、そ

こらへんを盛り込んで、阿南町の子どもたちも学校訪問で会々と阿南町としても何か新しいものを出して、それに向かっていくには個別最適化的に一貫校化は結構いけるなあと私は思いますので、それが何年続くか判らないにしても、今言うように子どもたちが希望が持てるように阿南町が一生懸命に考えているんだということを示していけたらいいなあとと思います。学校のグランドデザインを考える時に、目標が文言が入ってくるので、今新野の学校で考えていますが、ほかの学校は1月くらいから考えるので、それに反映できたらいいなあと私は思います。

○総務課長

ありがとうございました。それでは時間にもなります。教育長何かありますか。

○教育長

いいです。

○総務課長

町長

○町長

いいです。

○総務課長

括弧1の用意しました新野小中学校一貫校進捗状況については以上でございます。次に括弧2、その他ということでもありますので、項目以外のことで、ご意見等ございましたらお出しいただきたいと思いますが、いかがでしょうか？事務局でも何か特にございませんか。

○事務局長

はい。

4 閉会

○総務課長

よろしいですかね。ありがとうございました。

それではこれをもちまして、令和5年度第1回阿南町総合教育会議を閉会させていただきます。

なお、今年度もう1回開催予定ですが、年明けぐらいぐらいということでございます。今後ともよろしく願いいたします。本日はお忙しい中ありがとうございます。ありがとうございました。